

## 平成 26 年度 園芸特産業関係功労者表彰 受賞者功績概要

(敬称略)

### 甘 利 一 夫 (小諸市)

昭和 41 年に就農し、はくさいとキャベツ栽培に従事。その後、小諸市を中心に栽培規模を拡大し、平成 16 年に(有)アマリファームを設立した。さらに、群馬県に農場を確保して標高差を生かした栽培体系を確立するなど、現在はレタスを中心とする県内屈指の大規模野菜生産を実践している。

この取り組みが地域や近隣の野菜農家の生産規模の拡大や経営の法人化などを誘起するとともに、氏は大規模な野菜経営を目指す者へのアドバイスを積極的に行い、野菜の生産振興に貢献された。

また、研修生を積極的に受入れ、これまでに 2 名が県内他地域で就農しており、農業後継者の育成に尽力された。

### 柳 澤 源 太 郎 (茅野市)

昭和 41 年に就農してリンドウ栽培を開始。湿害や連作障害によるリンドウの代替品目が模索される中、アルストロメリアが低温性で夏季冷涼な気候の諏訪地域に適していると判断し、昭和 54 年に地域でいち早く導入。国内でも栽培事例が少ない状況において、品種選定や地中冷房技術の確立に積極的取り組み、新たなアルストロメリアの産地形成に貢献するとともに、補完品目として宿根カスミソウを導入して経営の安定化を図り、これが地域の経営モデルとして普及・定着した。

また、積極的に研修生を受入れて指導を行い、次代を担う若い農業者の育成に尽力された。

### 青 木 定 祐 (木曾郡木祖村)

昭和 33 年に就農して以来、はくさい栽培に従事。昭和 45 年に木祖村でいち早くマルチ栽培と直播栽培に取組み、栽培技術を確立するとともに開田地域への普及・定着にも努めた。さらに、昭和 57 年に木曾農協野菜生産部会副部長及び同部会木祖村野菜部会長に就任後は、栽培の難しい黄芯系品種「大福」の導入や予冷施設建設、検査員制度の導入など、「御嶽はくさい」の基礎を築く活動に尽力し、産地形成とブランド確立に貢献された。

また、平成 13 年度から西山耕地組合長及び西山ほ場整備実施委員長として木祖村西山はくさい団地造成を推進されるなど、木祖村農業の発展に尽力された。

## 高原 正雄（安曇野市）

昭和 36 年に株式会社辰巳に入社。にじます等の養殖において、種苗の安定生産におけるウィルス病対策として、地下水を利用した防疫施設の普及に努めたほか、独自の養殖技術により生産性を向上させた。昭和 54 年からは信州虹鱒養殖漁業協同組合の要職を務めるとともに、平成 4 年から 20 年まで全国養鱒振興協会理事を務め、業界のリーダーとして養殖業の発展に貢献された。

また、県水産試験場が開発した信州サーモンを平成 16 年から率先して導入・生産するとともに積極的な販売促進に取り組み、生産振興と知名度の向上に貢献された。加えて、信州サーモン振興協議会では平成 22 年の設立当初から会長を務め、会員の養殖技術の高位平準化を図り、信州サーモンのブランド化に尽力された。